

2013年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



教室だより 2月号

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936 (上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891 (福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯 090-2260-0671

Eメール: yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス: yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

自分の限界を自分で破る

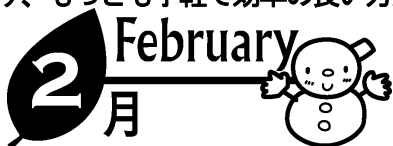
寒さがいっそう身にしみる時期となりました。2月の異称、如月よすがらぎは、寒さで着物をさらに重ねて着る、「着更着」が由来だとの説が有力とされています。人間の力には限りがあり、冬の寒さ自体はどうすることもできません。

しかし、子どもたちがもつ能力には、限界はありません。もしも、周囲の大人が「この子の学力はこの程度だろう」、「うちの子は、これぐらいできれば十分」などと思ってしまうと、子どもの成長は止まってしまうかもしれません。しかし、子どもたちは目の前の課題に自分で取り組み、「やってみたら、できた」という体験を積むことで、「自分はいったいできるのではないか」という気持ちを伸ばし、自分で自分の限界を次々に超えて挑戦していける人に育っていくのだと思います。子どもは元来、もっとできるようになりたい、学びたい、成長したいと向上心をもつ存在です。周囲の大人ができること、それは「子どもの可能性を信じること」ではないでしょうか。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

「わが子をすこやかに、能力の高い子に育てたい」という願いは、親として共通のものではないでしょうか。乳幼児期にわが子の能力をどれだけひろげられるか、高められるかは働きかけ次第のようです。

公文式の歴史の中で、優秀な子どもたちは例外なく語彙が豊富で読書能力が高いということがわかってきました。それではどのようにしたら本好きな子どもに育てられるのでしょうか？ 本を読むために必要な、豊かな語彙を育てるにはどうしたらよいかというと、まず歌をたくさん聞かせることです。乳幼児でも、自然に覚えてスラスラうたえるようになり、当然のことながら、歌詞を覚えることでどんどん語彙も増えていきます。語彙が豊かになることは、本を読むために必要なことであると同時に、語彙が豊かになった子どもは、自分の知っていることばに関連して、いろいろなことに興味を持っていくのです。歌をたくさん聞かせることは、子どもの能力開発のためにもっとも基本的なことであり、もっとも手軽で効率の良い方法です。



2013年 2月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11 <small>建国記念の日</small>	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

本市場教室日□

横割教室日△

今月の「ことわざ」

うそつきはどろぼうのはじまり

平気でうそをついていると、最後にはどろぼうのような悪い人になってしまう。だから、うそをついてはいけないということ。

「ケーキを食べたと言っていないけれど、口のまわりにクリームがついているよ。うそつきはどろぼうのはじまりだよ。」

くもん出版刊「ことわざカード」より

公文をもっとわかってください(23)

【第23回】公文式学習法

1. 家庭教育こそ、わが子にちょうどの内容を!

家庭教育こそ、わが子にちょうどの内容を!

子どもは好奇心や知識欲が旺盛で、もともと勉強が大好きです。勉強が嫌いなのは、その子にとって難しいことを無理にさせようとするから起こるのです。子どもを勉強好きにし、やる気を育てるためには、その子にちょうどの学習をさせることです。どの子にも、「すらすらできる」段階は必ずあります。その段階が、その子どもにちょうど合った学習です。

公文式では学年に関係なく、たとえば算数・数学の場合、5年生の子どもでも、その80%は小学1年生相当のたし算から学習を始めます。たし算ができないからではなく、容易にすらすらできる段階からスタートした方が、後々の伸びがよいことがわかっているからです。この考え方は、国語でも英語でも変わりません。

子どもはひとりひとり育ってきた環境が違います。したがって、当然、同じ年齢、同じ学年でも学力差があります。この学力差を無視して、同じ学年だからといって、一斉に同じ段階の勉強をさせたのでは、学力に合っているのは一部分の子どもだけで、とてもひとりひとりを勉強好きにはできません。学校ではやむを得ず一斉授業をしていますが、家庭学習では、まず現在のわが子の学力を見きわめることが大切です。

2. 0歳から大学教養課まで、切れ目なく揃った教材

公文式の教材は、どの教科でも、その子どもに最もふさわしい段階から学習をスタートでき、無理なく進めるために、次のように構成されています。(2013年1月現在)

国語教材8A～2A、AI～LII・J～O教材の31段階

算数・数学教材 6A～P教材の21段階

英語教材3A～O教材の23段階

で、童話を歌い聞かせる0歳相当の内容から始まり、各科の最終教材は大学教養課程相当までレベルアップします。それぞれの段階が200枚ずつのプリントからなっており、一貫した流れのもとにプリント1枚1枚が細かくステップ化されていますから、子どもはプリントを解き進むうちに、知らず知らずのうちに高い学力を身につけていくことができます。また、ひとつひとつのステップも、単調に上がり続けるものではありません。たとえば、数学3A教材の41番で「6+1」から「13+1」までを学習したら、42番では「14+1」からではなく、「7+1」から「15+1」までを学習します。44番は「7+1」から「16+1」までです。あるステップで達した最高レベルよりも、次のステップでは低いところから始め、それでいて最後は前のステップよりも高いところに進みます。このように構成された教材は、子ども自身にも、やがて自分ほどの段階にまで進むか、とても勘定しやすく、目標を持ちやすいのです。自分の目標を持った子どもは、意欲的に学習を続けていきます。

*ゆき子の一言コラム

公文式がめざしているのは単に数学や英語、国語の学力をつけて成績を上げることだけではありません。もちろん、学力をつけ、成績を上げる、という面においても他に例を見ない効果を上げていることは事実であり、とても大切なことですが、実は、公文式の真価は自学自習の態度と習慣を身につけるという点にあるのです。

自学自習の基礎となるものが読解力、すなわち本を読んで内容を理解できる力です。まず読書によって読解力を身につけてやり、さらに高度な内容を読めるようにするために、教材学習をさせているのだと考えていただきたいのです。そして幅広い読書を通して、子どもたちは人間性を養い、人生観を確立し、やがて社会に貢献できる人材として成長していくのです。

子どもたちに自ら学ぶ喜び、自分の力で進んでいける喜びを体験させて、実社会に出ても自ら学びながら成長し、物事に積極的に取り組んでいける人間に育ててほしいというのが公文式の願いです。

*教室での決まりごと。

- ・はきものはきちんとそろえよう!
- ・あいさつは おおきなこえで はっきりしよう!
- ・もちものには なまえ をかきましょう!
- ・でんわをかりたら かならず 10えん いれてください!

その他連絡: 2月の無料体験学習 2月15日(金)～2月28日(木)